平城宮跡歴史公園歴史体験学習館の整備に関する検討委員会（第5回）

委員会資料

平成３１年　１月３０日（水）

奈良県県土マネジメント部まちづくり推進局
平城宮跡事業推進室

○本資料の構成

第５回検討委員会の議事の流れ

（１）歴史体験学習館整備の位置づけ

（２）東側地区の現況把握（法規制）

（３）歴史体験学習館の整備方針（案）

（４）歴史体験学習館の基本的な考え方（案）

（５）歴史体験学習のテーマと体験内容（案）

（６）東側地区の全体施設配置計画（案）

（７）歴史体験学習館の主要施設計画（案）

（８）歴史体験学習館の景観計画（案）

（１）歴史体験学習館整備の位置づけ

歴史体験学習館を含む平城宮跡歴史公園の整備は、平成20年12月に有識者を交え国土交通省が策定した「国営飛鳥・平城宮跡歴史公園 平城宮跡区域基本計画」に基づいて行われている。

【基本理念】

古都奈良の歴史的・文化的景観の中で、
平城宮跡の保存と活用を通じて、
“奈良時代を今に感じる”空間を創出する。

【基本方針】

① 特別史跡・世界遺産である歴史・文化資産としての適切な保存・管理
② 古代国家の歴史・文化の体感・体験
③ 古都奈良の歴史・文化を知る拠点づくり
④ 国営公園として利活用性の高い空間形成

【導入すべき機能】

① 歴史・文化体感・体験機能
② 歴史・文化交流拠点機能
③ 観光ネットワーク拠点機能
④ 自然的環境保全・創出機能
⑤ レクリエーション機能
⑥ 利用サービス機能

基本計画では、平城宮跡歴史公園の空間配置を4つのゾーンに区分しており、歴史体験学習館が属する「拠点ゾーン（拠点施設エリア）」の整備は、平成25年12月に国土交通省と奈良県が策定した「平城宮跡歴史公園拠点ゾーン整備計画」に以下のとおり記載されている。

【拠点ゾーン（拠点施設エリア）の整備計画】

本公園の正面玄関として、園内の案内・利用情報の提供に併せ、平城宮跡に対する知識と理解を深めるためのガイダンス、出土品の展示等を行う施設を設けるとともに、その拠点性、利便性を活かし、奈良全体の歴史・文化にかかる情報発信や交流の拠点となる施設を設けるエリアとする。

「歴史体験学習館」：奈良全体にかかる歴史・文化情報の発信や交流の会場となる施設

⇩

平成30年3月に拠点ゾーンの一部が完成し、「朱雀門ひろば」がオープンしたことから、
残る歴史体験学習館の整備にとりかかるもの

（２）東側地区の現況把握（法規制）

事業用地（南北に約100m、東西に約90m）は市街化区域等であることから、複数の規制がかけられている

・第1種住居地域【都市計画法（第8, 9条）】

→　建築基準法（第48条）により、
建ぺい率60%、容積率200%

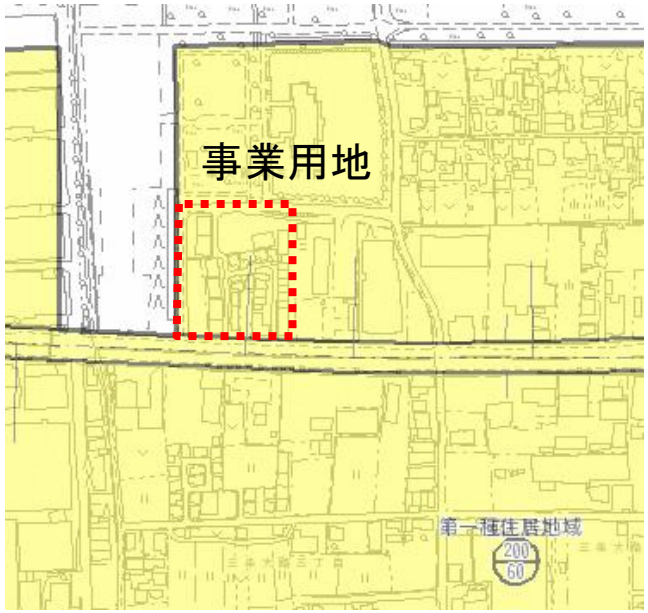


図１　事業用地の用途地域
資料）奈良市都市計画情報公開システムの情報より作成

・高度地区【都市計画法（第8, 9条）】

→　事業用地北側の幅約30mの部分は地上から10mの高さ制限（緑色の範囲）
事業用地南側の幅約70mは、地上から15mの高さ制限（ペールオレンジの範囲）

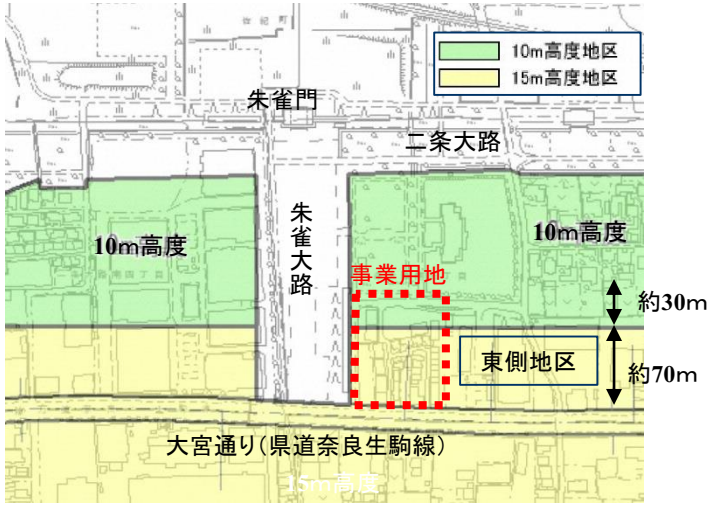


図２　事業用地の高さ制限
資料）奈良市都市計画情報公開システムの情報より作成

・歴史的風土保存区域（平城宮跡保存区域）【古都保存法】

・第三種風致地区【都市計画法（第8, 9条）、奈良市風致地区条例】

→　敷地北側の幅約30mの部分は、地上から10mの高さ制限
勾配屋根　切妻、寄棟、入母屋
建ぺい率40%以下
道路からの距離　2m以上
緑地率　20%以上

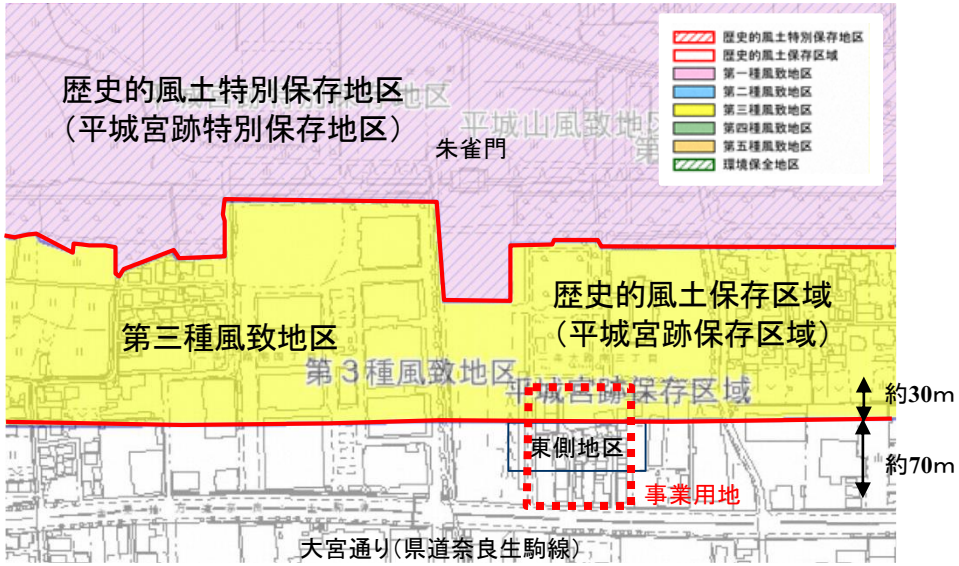
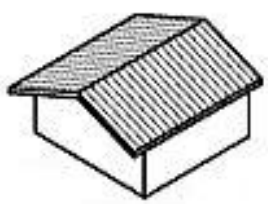
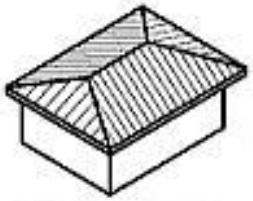


図３　事業用地の風致規制

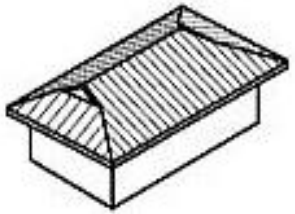
資料）奈良市都市計画情報公開システムの情報より作成



切妻（きりづま）屋根



寄棟（よせむね）屋根



入母屋（いりもや）屋根

（３）歴史体験学習館の整備方針（案）

１）歴史体験学習館の果たすべき役割

我が国を代表する歴史・文化資産である平城宮跡の価値にふれていただくには、保存と活用を通じた情報発信が必要。

↓

情報発信をより分かり易く伝えるためには、現代の視点から見ても分かり易い工夫が必要

↓

７世紀：当時の東アジアは大国「唐」が君臨しており、遣唐使を通じて進んだ文化等を学んだ

↓

当時の国際交流を学ぶことによって、平城宮跡の貴重さをより一層理解していただくとともに、文化の発展には国際交流が大切であることにふれていただくことを目的とする

この施設は基本計画からも、体験（情報発信）と交流の２本立て

歴史体験学習館は楽しく学んでもらえるよう、体験を中心とした施設とし、既存施設との区別化を図る。

２）歴史体験学習館の基本コンセプトと基本方針

“１）歴史体験学習館の果たすべき役割”から、本施設の基本コンセプトと基本方針を以下のように設定

【歴史体験学習館の基本コンセプト】

“奈良時代を今に感じる”歴史文化体験と交流の舞台

【歴史体験学習館の整備基本方針】

- 平城京の成り立ちや奈良時代の歴史・文化の体験環境の構築
- 歴史・文化の学習を通じた奈良全体への誘いの仕掛け構築
- 体験を通じて誰もが集える交流の舞台構築

【“体験学習”コンセプト】

・国際交流を通じて、どのように天平文化の発展につながったのかを学習

・宝物の美しさ、国際性豊かな文化に触れて華やかな天平文化を学習

・国際交流豊かな奈良時代の宮廷行事や、人々の文化・くらしぶりを学習

【“交流”コンセプト】

・歴史・文化に関する行事等を集団で体験することで、歴史体験学習館に集まった人同士が交流

・イベントなどの開催場所を提供することで地域内や地域間が交流

（４）歴史体験学習館の基本的な考え方（案）

【歴史体験学習館で行う「体験学習」の定義】

本施設で行う「体験学習」とは、国際交流が天平文化の発展にどのようにつながったのかを楽しく学習する活動。

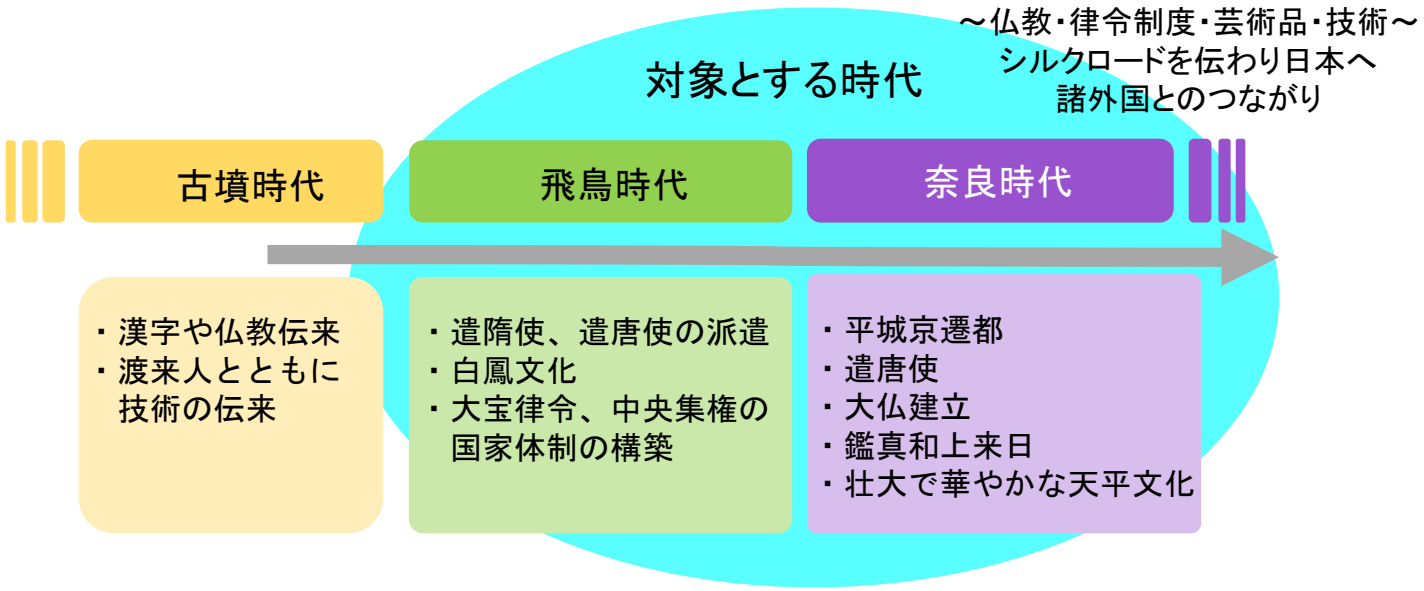
【歴史体験学習館で行う「交流」の定義】

本施設で行う「交流」とは、施設に集う人同士が歴史や文化の理解を共有し楽しく体験する活動。

【対象とする主な時間軸】

●飛鳥時代～奈良時代

・平城京は唐の都「長安城」などがモデルと言われている。
・当時の日本は、国づくりのために中国の優れた文化などを取り入れ飛鳥古京から藤原京、平城京と国づくりを行い、天平文化を華開かせた。



→ 奈良時代の歴史を飛鳥時代から線で結ぶ

【対象とする基本テーマ】

●国際交流

〇奈良時代は遣唐使による国際交流が盛んな時代で、唐の文化は平城宮の設計や律令制度、生活様式にまで影響。

・東西交易のシルクロードを通じて、唐の長安に集まった世界各地からの工芸品や、新羅や渤海からの文物などが奈良に伝来。

・文物に加え、思想の交流、人の交流、技術の交流などにより、唐の文化が広く定着。

・国際色豊かな刺激を受けたことにより、様々な美術品が国内でも作られ、現代に正倉院宝物として継承。

→　これらの奈良時代を形成する事象は「国際交流」によるもの

【対象とする地理的範囲】

●飛鳥時代～奈良時代において、平城京と関連した重要な史実が生じた県内各地

・平城京へ都が移るまでは、斑鳩や飛鳥・藤原に政治の中心があり、平城京へとつながる国際交流が行われていた。

・飛鳥・藤原京を経て、平城京へと都を移して文化が発展していく過程において、国際交流は大きな影響を与えた。

・当時は国際交流が盛んに行われ、県内各地に貴重な文化財が多数存在。

【主なターゲット層】

●全て（主に若者・外国人観光客・中高年）

・飛鳥時代から大陸の優れた文化や政治制度などを学び、律令国家として歩み出した時代を歴史の流れに沿って学習できるものとすることから、歴史を学ぶ主たる世代である若者をメインターゲットとする

・交流人口を増やすためにも外国人観光客は重要であり、当時大陸から学び、交流していたことを知ってもらうためにも、外国人観光客をメインターゲットに含める

・一方で、平城宮跡には歴史や史跡に興味のある方々も多数訪れていることから、中高年の方にも楽しんでいただけるようにする

【体験学習・展示テーマ】

- ●平城京へとつながる歴史
- ●正倉院の宝物
- ●奈良時代の文化・くらし

国際交流により華やかだった時代の賜物：『天平文化』

・天平文化が花開いた過程を理解するとともに、奈良の都・平城京を中心に栄えた天平文化について学ぶための体験学習とする。

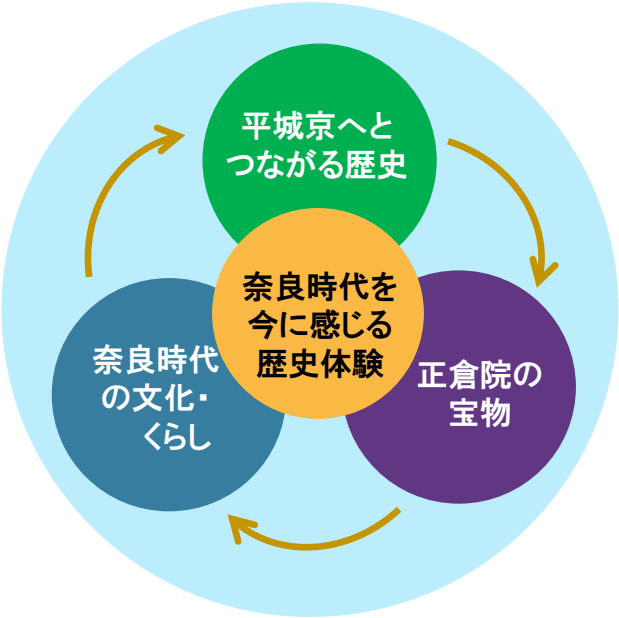
天平文化

→ 国際色豊かな天平文化が花開くこととなった歴史的過程：「史実」

→ 天平文化に大きな影響を与えたといわれる唐及び西域より舶載し、正倉院正倉に保管されて現在に伝わる正倉院宝物：「宝物」

→ 天平文化が花開いた当時の人々の生活様式（暮らしぶり）を物語る考古文献や発掘調査成果：「書物、遺構・遺物」

〈　３つの柱で構成する体験学習・展示のテーマ　〉



○「史実」から読み解く「国際交流」を通じ発展した天平文化：
【平城京へとつながる歴史】

○「宝物」から読み解く国際色豊かな天平文化：
【正倉院の宝物】

○「書物、遺構・遺物」から読み解く当時の貴族文化や
それを支えた人々の暮し：
【奈良時代の文化・くらし】

（５）歴史体験学習のテーマと体験内容（案）

〈　各テーマから想定される体験内容　〉

テーマ	柱①　平城京へとつながる歴史	柱②　正倉院の宝物	柱③　奈良時代の文化・くらし
コンセプト	国際交流を通じて、どのように天平文化の発展につながったのかを学習	宝物の美しさ、国際性豊かな文化に触れて華やかな天平文化を学習	国際交流豊かな奈良時代の宮廷行事や、人々の文化・くらしぶりを学習
体験内容	「国際交流」や「天平文化」に着目し、飛鳥～奈良時代の重要な出来事を体験	正倉院の宝物を見て触れて、往時の国際交流のスケールを体験	古事記、日本書紀などの文献、考古資料、木簡などから読み解けるその時代の人々の暮らしを体験
例示（案）　見て学習	・国際交流に貢献した阿倍仲麻呂や、鑑真和上などになりきった映像学習体験	・模造品と模造品の制作過程の映像展示で宝物の細部を見て知る体験	・宮廷行事や当時の人々のくらしぶりをヴァーチャル体験
例示（案）　触って学習	・往時を想起させる、歴史的出来事等の体験	・3Dプリンターで宝物レプリカを製作、直接触れて実物大の大きさ・重さを体験	・貴族や当時の人々の遊びを知り、往時の道具等を使って遊ぶ体験
例示（案）　着て学習	・冠位十二階の制度を学ぶ衣装体験	・宝物レプリカ（仏具、楽器、伎楽面、装束等）を用いた儀式の体験	・組み紐で帯等を作って着る古代衣装体験
例示（案）　作って学習	・大宝律令制定の背景を学び、木簡に約束事を明記する体験	・天平文様（国際交流の証）を瓦等から 布や紙に拓本をとる体験	・土器や木簡に描かれる人や動物の顔を墨でうつしとりお面をつくる体験

※　体験の内容は定期的に取り替えて組み合わせ、飽きられることがないよう工夫することを想定

（６）東側地区の全体施設配置計画（案）

１）上位関連計画における施設配置の考え方

・上位関連計画※における施設配置の考え方

※　国営飛鳥・平城宮跡歴史公園　平城宮跡区域　基本計画（平成20年12月策定）
　　平城宮跡歴史公園　拠点ゾーン整備計画（平成25年12月策定）

既往計画	計画に記載の項目	記載内容
基本計画	空間配置計画	＜拠点ゾーン＞ 〇平城宮跡の正面玄関及び奈良観光の玄関口として ・公園全体の利用、管理、運営の拠点 ・歴史・文化交流拠点 ・観光ネットワーク拠点 を持ったゾーンとする 〇朱雀大路から朱雀門に至るシンボリックな軸を強調し、往時の平城京のスケールを感じさせる広がりのある空間形成
拠点ゾーン整備計画	整備コンセプト	＜具体的な配慮事項＞ ・建物の配置は、朱雀大路をシンボル軸とし、南北方向を意識する ・往時の条坊道路の見通しを確保し、（中略）、平城京のかたちが感じられる空間にする ・朱雀門前の朱雀大路とその東西は、朱雀大路から控えて建物を配置することで、空間の広がりを感じられるようにする

赤字は施設配置にあたり留意する必要のある表現

図４　朱雀門ひろばを俯瞰した想定図

・「朱雀門ひろば」全体を俯瞰して、「朱雀門ひろば」全体のバランスを重視

→　朱雀大路をシンボル軸とすることから、西の復原遣唐使船に並ぶランドマーク的なものが大宮通りから見易いところに必要

・朱雀大路をシンボル軸とし、南北方向を意識

→　歴史体験学習館の北側に位置する「平城宮いざない館」（国土交通省施設）は、朱雀大路をシンボル軸とし、南北方向を意識して配置されていることから、歴史体験学習館は平城宮いざない館」の中心線にあわせた配置とする（図５）

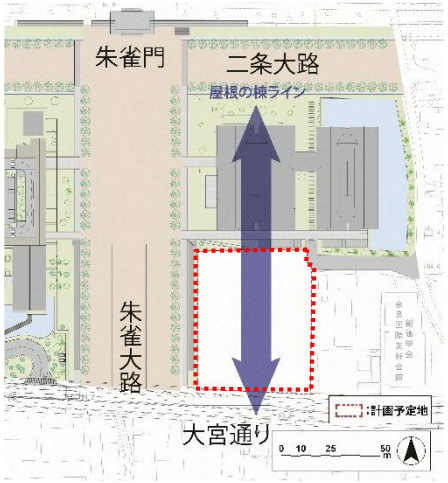


図５　平城宮いざない館との中心線あわせ

・往時の条坊道路の見通しを確保

→　条坊道路の見通しを確保した配置とする（図６）

図６　条坊道路の見通し

・朱雀大路から控えて建物を配置

→　「平城宮いざない館」の西面と歴史体験学習館の西面をあわせ、朱雀大路から控えた配置とする（図７）

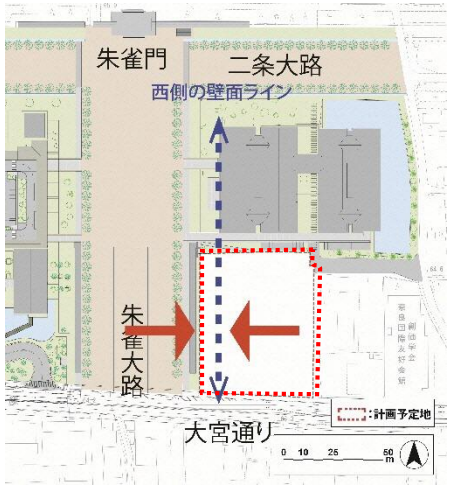


図７　平城宮いざない館との配置あわせ

＜全体の空間構成について＞

・利用者導線は、北側の朱雀大路からと南側の大宮通りからの２方向の誘導を想定
・管理者動線は、「平城宮いざない館」と共通化を図れるよう、北東角からの出入りとし、利用者動線との重合を回避

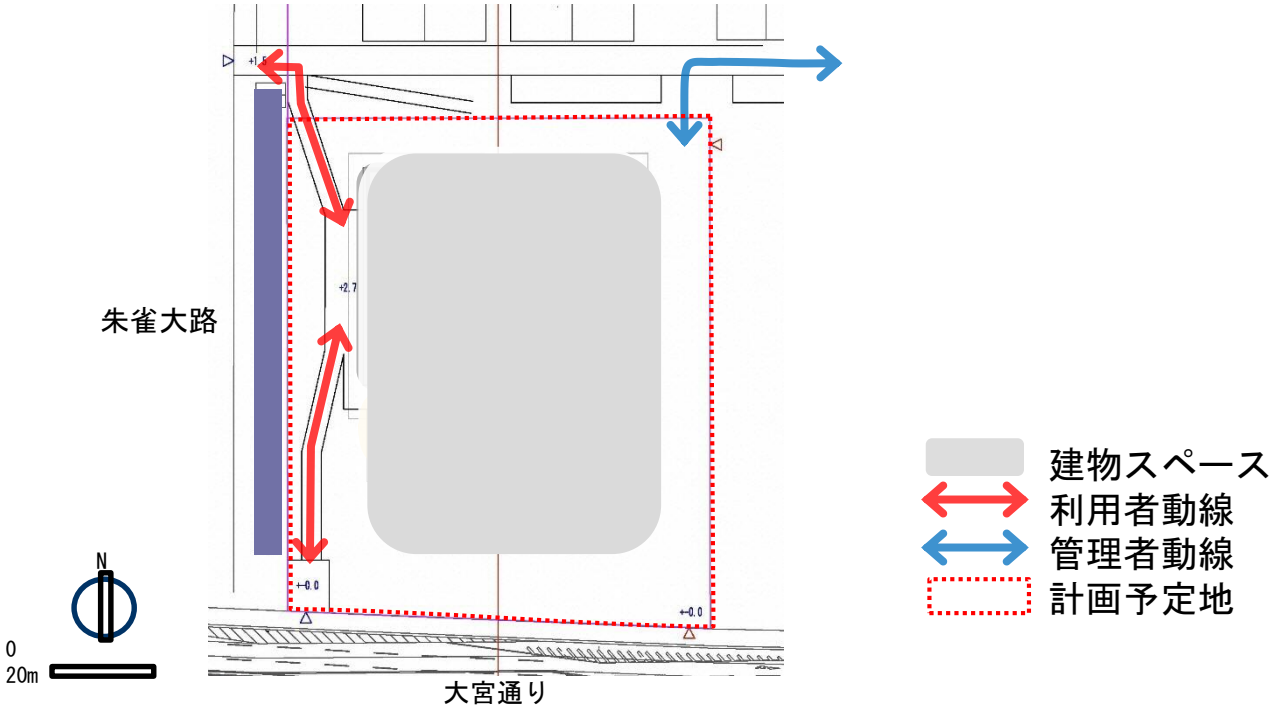


図８　計画地内の空間構成の模式図

（７）歴史体験学習館の主要施設計画（案）

＜建物の機能について＞

① 歴史体験学習館に持たせる３つのテーマを１つの順路で体験できる配置にする

② 歴史体験学習館には３つのテーマ（歴史、宝物、文化・くらし）があることから、交流エリアを中心として、これを取り囲むような３棟の建物配置にする。
（北側２棟は高さ10m以下、南側１棟は高さ15m以下）

③ 交流エリアに人が集いやすくなるよう、どの建物からも視線を集める配置にする。

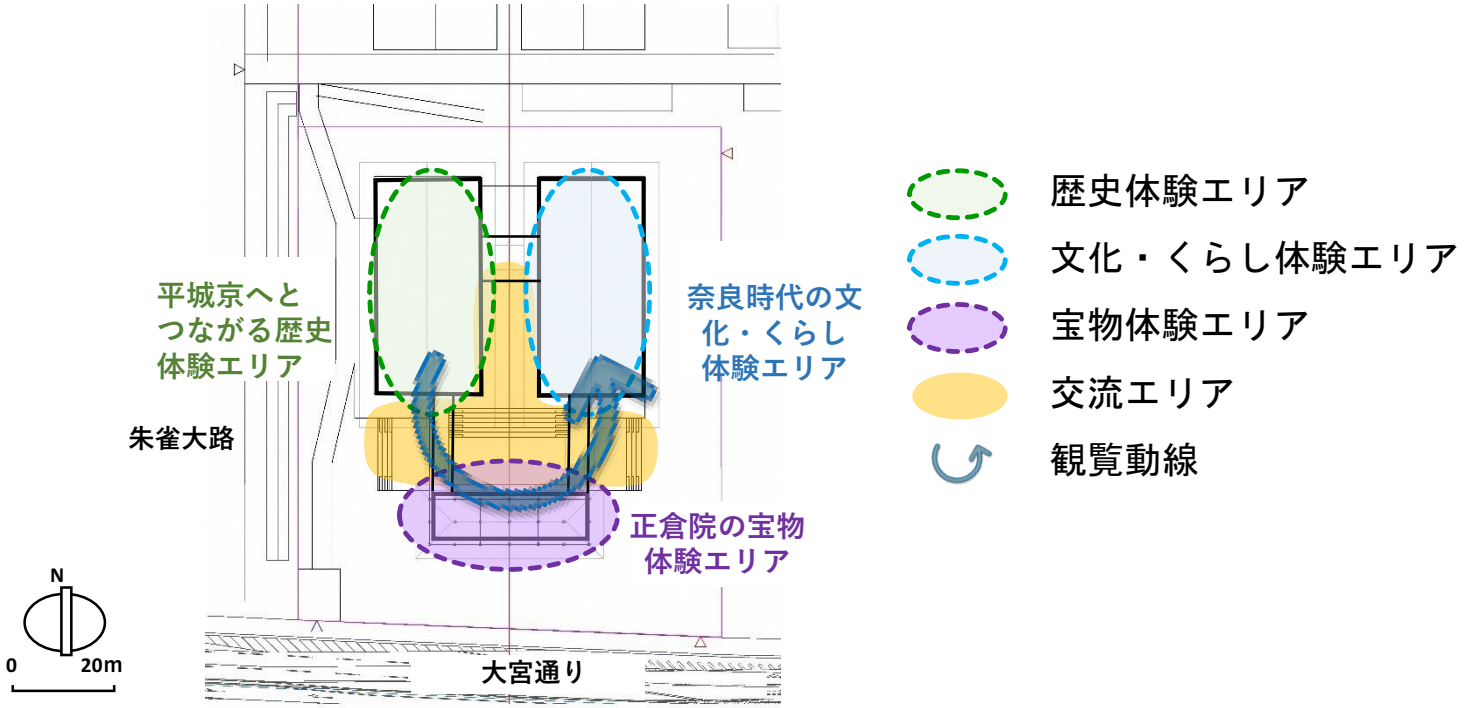


図９　建物の配置と機能の関係図

＜建物内の諸室構成の想定について＞

・朱雀大路と大宮通りからの動線を南北棟西側建物のエントランスエリアで受ける

・受付、事務室などの管理用スペースは、エントランス機能に必要なことから、南北棟西側建物の北側に集約

・収蔵、設備室他は管理者動線を考慮して、南北棟東側建物の北東側に集約

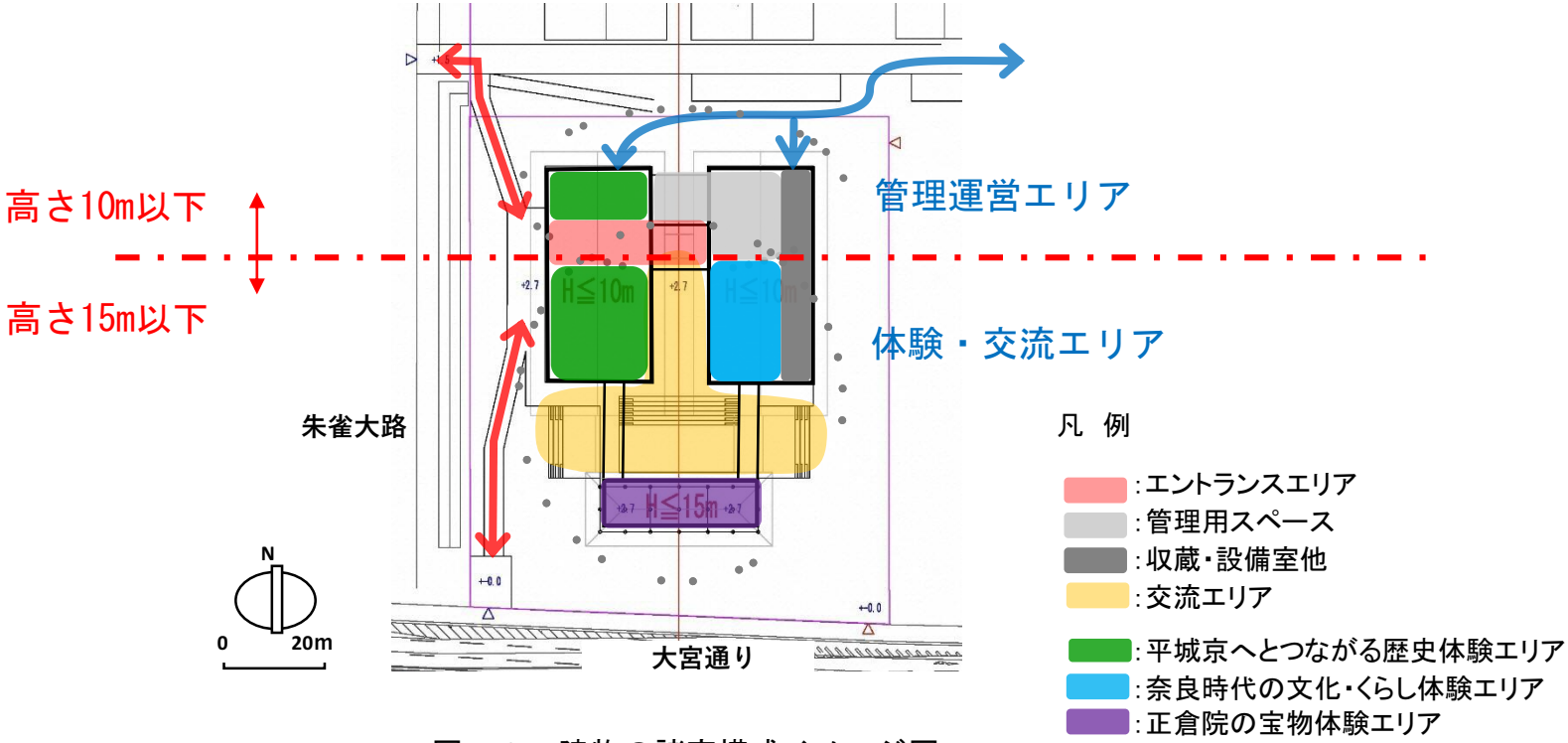


図１０　建物の諸室構成イメージ図

＜建物内の諸室構成の想定について＞

＜規模算定表＞

区分	機能	必要諸室	規模（㎡）	床面積（㎡）
体験機能	**体験学習機能** ３つの柱をテーマに実体験できる体験学習を行う機能 交流エリアの屋外空間と連携しながら、多様なターゲットやニーズに対応したプログラムを企画・実施する	・歴史体験室① ・歴史体験室② ・くらし体験室①,② ・宝物体験室 ・映像体験 （・屋外交流エリア）	130 270 340 240 130	計　1,110
施設管理・運営機能	**管理運営機能**	・総合受付 ・収蔵庫1,2 ・荷解室、前室 ・ハロンガス室 ・学芸員室〈資料室含〉 ・管理事務室 ・ボランティア控室 ・機械設備室 ・備品倉庫 ・職員トイレ・更衣室 （・サービスヤード） （・駐車場、バックヤード）	10 60 60 10 60 135 35 250 80 40	計　740
便益機能	**便益機能**	・エントランスホール ・トイレ ・多目的室 ・更衣室、ロッカー ・渡り廊下・デッキ〈屋外〉 ・ピロティ ・廊下 （・サイクルポート）	130 80 60 70 250 320 200	計　1,110
総床面積	※（・）内については外部空間のため算出なし		2,960	

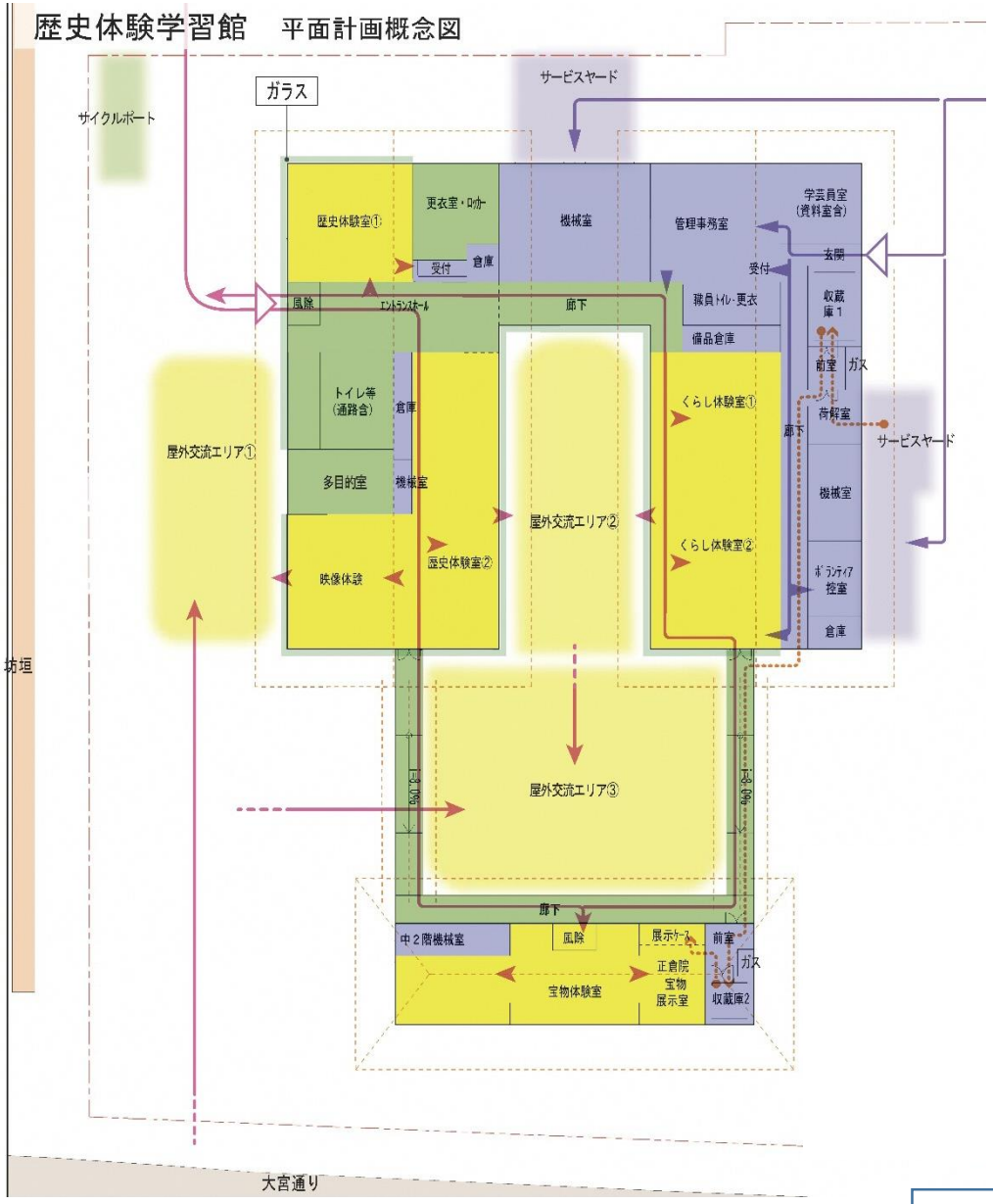


図１１　平面計画概念図

（８）歴史体験学習館の景観計画（案）

＜外観デザインの基本方針＞

①　３棟のうち大宮通り側に近い建物　１棟（H=15m）

→ランドマーク的な建物（p27）

②　３棟のうち平城宮いざない館に隣接する建物　２棟（H=10m）

→隣接建物との調和を図る建物（p28）

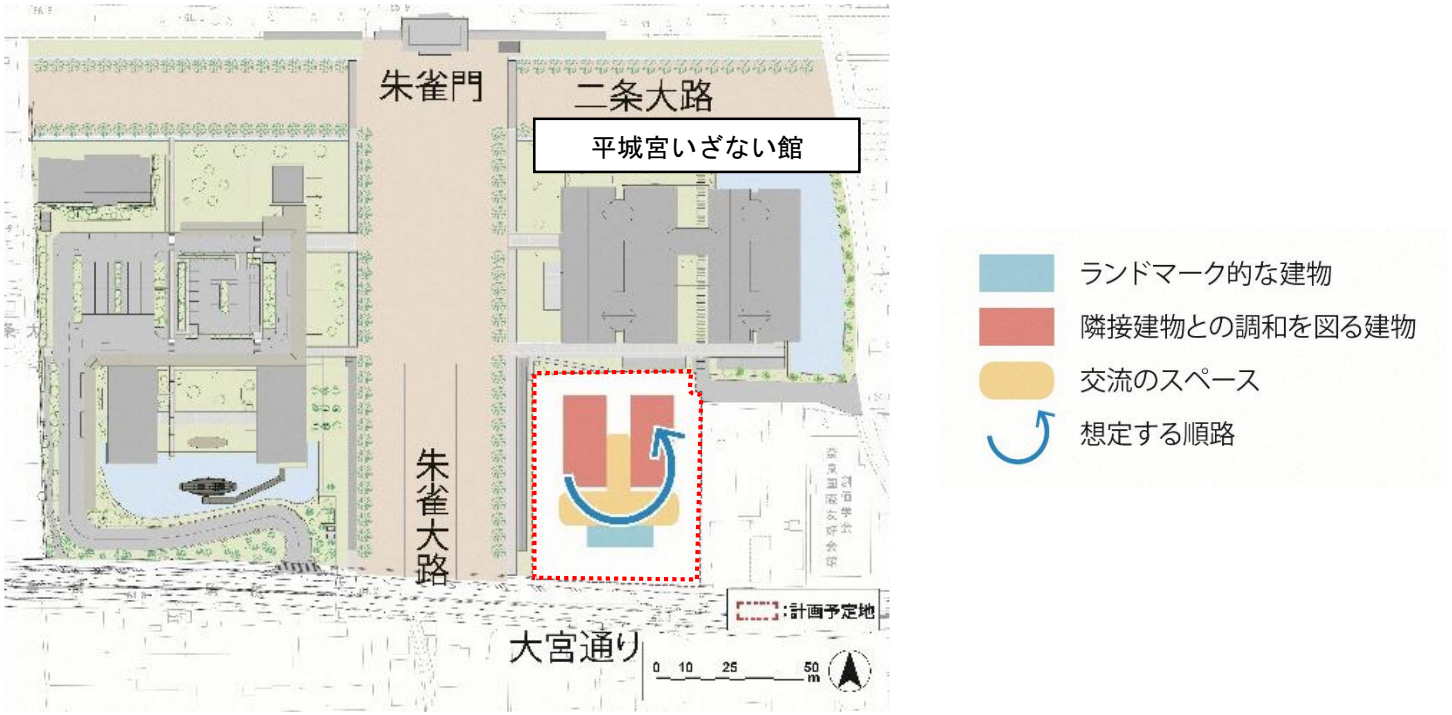


図１２　３棟の外観デザインの基本方針図

＜東側地区のシンボルとなるランドマーク建物の考え方＞

○平城京は国づくりとしての律令体制が整った時代の都であり、国内外から物資や人、技術等が集まったことにより、国際色豊かな天平文化が花開いた。

↓

○天平文化に大きな影響を与えたと言われる国際交流で重要な役割を担ったのが遣唐使及び遣唐使船であり、大陸から伝わった文化や宝物、技術等は1300年を経た現在に伝えられている。（動的シンボル）

↓

○律令制の整備によって、国内からの米や地方の特産品等の物資を集積し、保管管理する都市機能が必要となり、数多くの倉庫が平城宮に設置されていたと言われている。

↓

○平城宮に設置されていた倉庫の数多くは、校倉式の建物であったと言われている。

↓

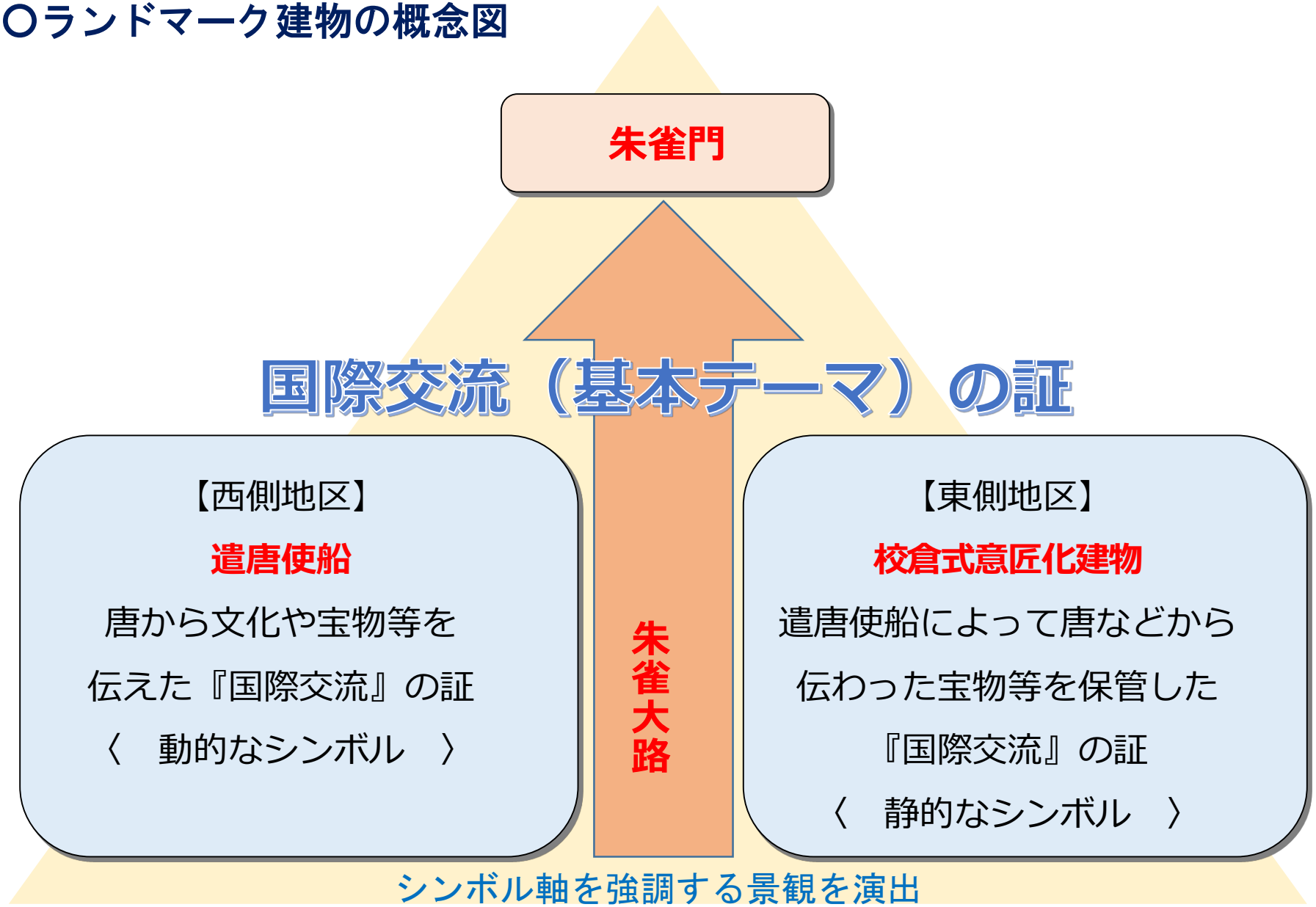
○遣唐使船によって伝えられた宝物を1300年後の現在まで伝えてきた建造物の典型が正倉院正倉であり、遣唐使船との関連性も強く国際交流を象徴する建物として現存している。（静的シンボル）

↓

○正倉院正倉は世界に誇るべきものであり、奈良時代の建物として多くの方に認識されているため、正倉院正倉に代表される校倉式の建物を意匠化したものを東側地区のランドマークと位置づける。

※但し、本施設は体験学習を目的としていることから、設計においては機能導入の考えを優先し、現代の技術を組み合わせた意匠化を行う。

○ランドマーク建物の概念図



＜ランドマーク建物の建築意匠の考え方＞

校倉式意匠化建物

→西側地区の遣唐使船と対になる「校倉式の建物」の典型として、多くの方に分かり易い正倉院正倉を基に意匠化

ただし、当時この場所に正倉院正倉があったと誤解を受けないよう工法等に配慮

【校倉式建物を特徴づける構成要素】

・校倉式建物の建築意匠を構成する要素を以下のように整理する
・建物の外観デザインはこれらの校倉式建物を特徴づける要素を用いて検討する

建物規模	⇒	実物大の規模で意匠化（H=14m）
屋根の形状	⇒	寄棟造
構造形式	⇒	高床校倉造
外観の仕様	⇒	南倉・北倉（校倉造） 中倉（板倉）

図１３　正倉院正倉（参考）

写真出典：宮内庁ホームページ　http://shosoin.kunaicho.go.jp/ja-JP/Home/About/History

＜隣接建物との調和を図る建物の検討について＞

・上位計画である「平城宮跡歴史公園拠点ゾーン整備計画」に示された〈景観形成にあたっての具体的な配慮事項（建築）〉を踏まえた建物とする

→　「平城宮いざない館」との意匠統一に配慮

〈景観形成にあたっての具体的な配慮事項（建築）〉

○朱雀大路側の壁面は、ガラスを使用し、建物の中や外から人々のにぎわいが感じられ、明るく入りやすい建物とする

○正面玄関としての品格が感じられる、落ち着いた色彩を使用する

○主役である復原建物（朱雀門）との差別化を図った意匠・素材を使用する
具体的には、簡素な屋根形状（切妻造り）とし、金属板葺きとする

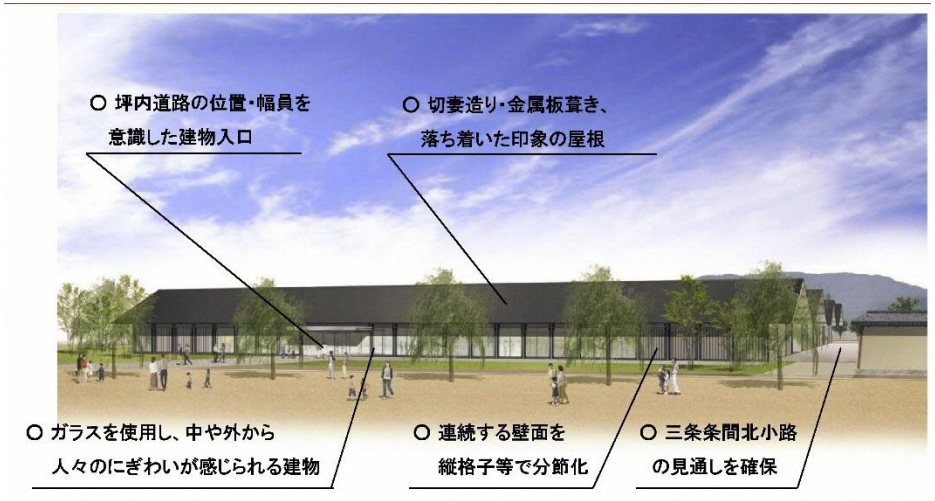


図１４　平城宮いざない館の景観配慮事項

出典：「平城宮跡歴史公園拠点ゾーン整備計画」（平成25年12月）

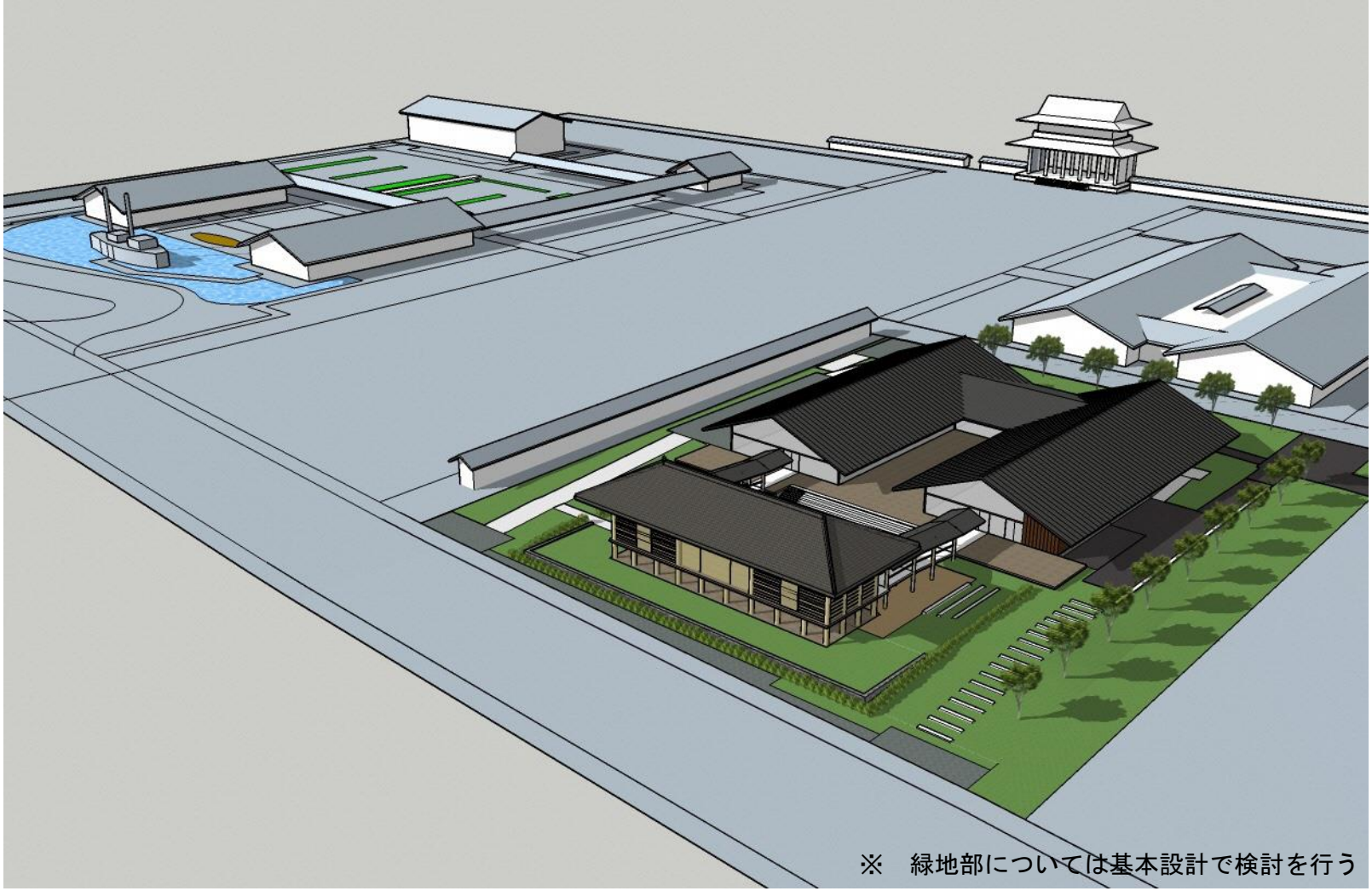


図１５　周辺と意匠統一を図る建物の外観デザインイメージ（案）